

令和3年度 横田小学校 学校評価表

学校経営の重点	達成のための方策	自己評価				横小教育を語る会	改善計画
		評価指標	肯定的評価(%)				
			目標	児童	保護者	結果の受け止め	意見・感想
(1) まなびづくり	①日々の授業において、児童の思いや考えを表現し、伝え合い、共に学び合う楽しさを味わえる授業を推進します。 ②ユニバーサルデザインの視点に立ち、個に応じたきめ細かな授業を推進します。 ③読み、書き、計算の基礎学力の定着を図ります。 ④家庭での自主学習に取り組み、学習の習慣化や主体的に学ぶ姿勢を育てます。 ⑤読書活動や図書館活用を推進し、児童の読書量と質、本を活用する力の向上を図ります。	「授業中、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いていたりしている」と答えた児童	85%	75%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値より10ポイント低く、自分から発信する(文章を書く、説明するなど)を苦手と感じている児童が多いと感じている。</li> <li>・授業の中で、自分の考えをもつ時間や書く時間をしっかり確保する必要がある。ペアやグループで伝え合うことをしているが、根拠をもって論理的に説明することができていないと児童は感じているのではない。</li> <li>・どのように書いたり説明したりするとよいか、教員が授業や普段の生活の中で指導していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での学習習慣が定着したり、人の話を大切に聴く姿勢が育ってきているのが伺える。先日の学校訪問でも落ち着いた児童の学習姿勢が見られた。</li> <li>・横田コミセンでもロビーや図書室で宿題をしている姿もみられるようになってきた。</li> <li>・自分の考えを書いたり、説明したりする主体的・対話的な学習へ向かえる素地づくりをしっかりとやっていただきたい。</li> <li>・自分の考えを、根拠をもって論理的に説明していく力を育てることが大切だと思う。そのために、どのように指導していくのか。また、家庭の協力は不可欠。PTAでの主体的な取組に期待している。</li> <li>・これからさらに少人数化が進むので、教員も学習集団のもう一人の学習者という立場で接していくような工夫が必要だと思う。</li> <li>・宿題や提出物を毎日しているか、親が理解できていないこともあるので、声掛けをしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級で書くこと(活動の振り返り、意見文、要約、礼状など)に継続的に取り組む。</li> <li>・全校で学力育成のための時間を設定する。</li> <li>・授業内でのブックPCの活用方法について研修を深め、紙とデジタルのお互いの良さを生かした学習活動を進める。</li> <li>・外部講師を招聘するなど、授業改善を進め、分かる授業づくりに努める。</li> <li>・学級会ノートを活用し、事前に自分の考えをもたせた上で学級会に臨むことを徹底する。</li> <li>・話し合い活動を充実させていくことは学力育成にもつながると考え、取組を強化していく。</li> <li>・スクールプランと児童会活動が同じ方向を向くことで、あいさつが少しずつ向上していったことを踏まえ、今後も児童会と連携してあいさつの充実に取り組む。</li> <li>・学級での図書館利用を推進し、読書活動だけでなく授業の中でも積極的に活用できるよう、情報カード等の整備を行う。</li> </ul>
		「授業中、先生の話や友達の意見を大切に聴いて」と答えた児童	90%	92%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人のことを大切に聴く」ことの指導が4年目となり、各学級、全校でより浸透してきた。児童が日常的に聴くことを意識できるようになってきている。</li> <li>・4月に鳴門教育大学の久我直人先生の講話を聞く機会を設けた。久我先生の考え方を教職員、保護者にも共有することができた。「人のことを大切に聴く」ことの重要性をより認識し、日々の指導に生かすことができた。</li> </ul>		
		「毎日、宿題を忘れずにしている」と答えた児童	90%	90%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の肯定的評価(86%)より向上したが、更に高めていきたい。</li> <li>・宿題の量や内容を個に応じて工夫し、自分の力で宿題ができたという肯定的な思いをもたせ、適切な評価をしていく必要がある。</li> <li>・宿題をしてこないことで、学校での落ち着きなくなる傾向が、特に低学年ではある。担任からの声掛けや個に応じた宿題の量にする等学校からの働きかけだけでなく、家庭での協力も引き続きお願いしていく必要がある。</li> </ul>		
(2) こころづくり	①命の大切さ、思いやりの心を育む人権・同和教育や道徳教育、特別支援教育を推進します。 ②児童が主体的に運営できる学校行事や委員会、縦割り班活動を推進し、自尊感情を高めます。 ③アンケートQ-Uや教育相談週間の個人面談等を通して、児童理解に努め、いじめや不登校の未然防止に努めます。 ④自分からあいさつ・返事、場に応じた言葉遣いができるよう指導を徹底します。 ⑤時間を守る・忘れ物をしない・掃除を一生懸命取り組む等、規律ある生活の定着を図ります。	「学校へ通うのが楽しい」と答えた児童	90%	87%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値には届かなかった(昨年度85%)。嫌なことを自分なりに消化したり、切り替えたりすることが苦手な児童もおり、配慮が必要である。</li> <li>・児童自らが学校生活をよりよくしようとする活動を仕組んでいく必要がある。</li> <li>・「授業がわかる、授業でできるようになる」という経験から学校に通う楽しさを児童にもっと感じさせたい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる。(急に行事がなくなるなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の重点として、時間を守る、忘れ物をしない、掃除を一生懸命することを全校で取り組むことはとても良いことだと思う。</li> <li>・自らあいさつをする児童が増えてきたように思う。</li> <li>・登下校時のあいさつが今一歩だが、以前よりよくなってきている。もうひと頑張りしてほしい。(コロナ禍での地域とのつながりが薄くなってきているのも一因かもしれない)</li> <li>・自己肯定感が低い児童が思ったより多く、意外だった。児童が困っていることやどうしたらよいか分からない時に、人に話したり弱みを見せたりしてもいいんだという気持ちをもってもらいたい。</li> <li>・自己肯定感の育成では、学校・家庭・地域で共通して、これだけは、というものがあるとよいと思う。(〇〇をほめよう等)</li> <li>・家庭と地域との連携が大切だと感じる。学校だけで完結することではないと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつに加え生活の重点を児童に明確に示すことで規律ある生活の定着を図る。</li> <li>・学級会や学級終礼、普段の会話でのやり取りの中で、児童の意見や思いを言う(伝える)場を意図的に設ける。</li> <li>・児童の自己肯定感を高める取組を日常的に行っていく。学級の取組を学年間で認め合う機会を増やす。</li> <li>・学校生活の中で、自分のよいところが1つでも書けるような問いかけ方をしていく。</li> <li>・自分のよかったこと、がんばったこと、楽しかったことなど、肯定的な内容を書く場を設ける。</li> <li>・学級活動で、自分の良いところや相手の良いところを見つけ合うといった活動に取り組む。</li> <li>・気になる児童に対しては、教職員で情報を共有し、声かけを積極的に行う。</li> </ul>
		「自分にはよいところがある」と答えた児童	80%	76%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感が低い児童が多いと感じた。学級内、学年間で認め合う場面を意図的につくっていく必要があると感じた。</li> <li>・よいところがあっても、もう少し努力することを指摘されたことが児童の心に大きく残り、自信を無くしているケースもあるのではない。</li> <li>・できない所があったとしても、それを自分で認めることも大事ではない。</li> <li>・まずは、校内で自分からあいさつや気持ちを伝える力を付けていくとよい。</li> </ul>		
		「学習物を忘れず持ってきたり、時間いっぱい掃除したりできる」と答えた児童	80%	91% 80%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習物を忘れずに持ってくる児童は、肯定的評価が向上(昨年度79%から今年度91%)した。</li> <li>・以前と比べると児童がかなり掃除をするようになったように感じる。今後も児童のがんばりを具体的に評価していくことが大切である。</li> <li>・学校生活の中で「やるべきことをしっかりとやる」という力は付いてきたように感じる。日常的な声掛け等学校側の関わりだけでなく、今後も保護者の協力が必要である。</li> </ul>		
(3) からだづくり	①体育の授業や業間運動などを通して、自ら進んで運動に取り組む運動好きな児童の育成に努めます。 ②座る・見る・聴くエクササイズによりしっかりした体幹づくりと姿勢づくりに努めます。 ③生活習慣チャレンジの実践(中学校区との連携)に取り組み「早寝・早起き・朝ごはん・はみがき・メディアコントロール」を家庭と連携しながら推進します。 ④安全教育・防災教育を充実させ、自分の命は自分で守る児童の育成を図ります。	「体育の授業や運動が好き」と答えた児童	95%	92%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値には届かなかった(昨年度94%)。運動が苦手な児童が、できるようになったことや上手になったことを、他人からだけでなく自分でも認められるようになることよい。</li> <li>・スポーツ委員会で昼休みに全校遊びを企画し好評だった。普段外で遊ばない児童が外遊びをする良い機会となった。</li> <li>・天気が悪い日でも校内で体を動かせる場(マット、跳び箱、縄跳び等)を設けていることも肯定的な評価につながっていると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育や全校遊び等で楽しんで体を動かしていることがよく分かった。</li> <li>・家庭や地域の力を借りて外遊びがたくさんできるような環境を整えたい。</li> <li>・メディア接触について、時間だけの指標での判断は難しい。これからパソコン等を使った学習も増えてくる。設問の検討が必要ではないか。</li> <li>・児童と話をする、ゲーム、ユーチューブの話が必ず出てくる。生活から離すことは難しいでしょうがブレーキをかけられるようになってほしい。</li> <li>・メディアの目標値と児童の評価に大きな差がある。児童がどう考えるか、どう指導が必要か、家庭での対応はどうか、今後の大きな課題だと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育では、少人数のため取り組みにくい内容には他学年と合同で取り組むなど、工夫しながら運動の機会を確実に確保する。</li> <li>・スポーツ委員会による全校遊びなど、児童会を活用し、楽しみながら体力(からだ)づくりに結びつけていく。</li> <li>・年間指導計画にメディアに関係するリテラシーに沿って体系的な内容を盛り込み、キャリア教育と結びつけながら指導に取り組む。</li> <li>・各学年の指導内容を保護者にも情報提供していく。正しく使う・ルールを守るなど、大切にすべきところは学校と保護者で共通理解を図る。</li> </ul>
		「普段の日(月～金)、スマホやパソコンでゲームやメールをする時間が1時間未満」と答えた児童(2年生以上)	70%	24%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の肯定的評価(35%)から低下したが、2時間以上使っている児童は、昨年度(61%)から今年度(48%)に減少した。</li> <li>・1時間未満が少ない点は、新型コロナウイルスのため家庭で過ごす時間が増えていることも影響があると考えられる。</li> <li>・各学年でメディアに関わる指導を今まで以上に系統的に行っていく必要がある。</li> </ul>		
(4) つながりづくり	①地域の人材を活用した活動や、地域に学ぶ活動を計画的に実践し、ふるさと学習を推進します。 ②家庭との連携により『メディアとのつきあい方』等、情報モラル教育を推進します。 ③幼小中の連携をより一層推進します。特に幼小交流の内容の充実を図ります。 ④学校だより・学級だより・ブログなどにより、教育活動の周知に努めます。	「子どものことで、気軽に学校に相談できる」と答えた保護者	80%	88%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響で来校者が減っており、電話での対応が重要であると考えている。引き続き誠意ある対応を心掛けること、担任だけでなく相談できる窓口を設けることを継続していく。</li> <li>・学校から、連絡帳や電話、面談・学校便り・学級便り・ブログ・お知らせの文書などで、できるだけ様子や情報を伝えていること、日常的に保護者との連絡等ができていくことが肯定的評価につながっていると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの地域に対する思いが高まるようになってほしい。地元の子どもがこれからの地域を担ってくれることを願っている。</li> <li>・保護者、地域とのつながりづくりがコロナ禍の中で変化しつつある。開校150周年に向けて新たなつながりづくりの模索もできるのではない。</li> <li>・メディアについて、保護者の実態はどうか？児童とルールを話し合える実態なのか。PTAでの主体的な議論が必要ではないか。</li> <li>・コロナが終息し児童と地域の接点である各種行事が再開できることを期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響下であっても、リモートを活用し、ふるさとの人材や他校の児童とのつながりづくりを進める。</li> <li>・スクールカウンセラーを活用した事例や感想等を保護者に紹介し、積極的な活用につなげていく。</li> <li>・授業公開などで、保護者と児童と一緒に研修をし、具体的なルール作りなどの改善策を考え、実践、評価する場を設ける。</li> <li>・情報モラルについて、継続的に保護者への啓発活動をしていく。</li> </ul>
		「家庭で、ルールを決めて情報機器(スマホ・PC・ゲームなど)を使わせている」と答えた保護者	80%	71%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の肯定的評価(70%)とほぼ変わらず、目標値に届かなかった。</li> <li>・今年度もメディアに関する講演会を高学年児童、保護者、教職員対象に行った。今後も家庭と連携して、継続的に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・メディアを利用するルールやマナー等、大切にすべきところは学校と保護者で共通理解を図ることが大切だと考える。</li> </ul>		